

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年 9月 4日

【評価実施概要】

事業所番号	4079400125		
法人名	社会福祉法人 日王福祉会		
事業所名	グループホーム くぬぎの里		
所在地 (電話番号)	福岡県田川郡福智町神崎 1056 - 114 (電話) 0947 - 22 - 0280		
評価機関名	株式会社 アトル		
所在地	福岡市博多区半道橋 2 - 2 - 51		
訪問調査日	平成20年8月21日	評価確定日	平成20年8月22日

【情報提供票より】(20年 8月 8日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 3月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤	11人, 非常勤 1人, 常勤換算 12人

(2) 建物概要

建物形態	併設/単独	新築/改築
建物構造	木造 造り	1階建ての 階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	22,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(20,000 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (8月 8日現在)

利用者人数	17 名	男性	3 名	女性	14 名
要介護1	5 名	要介護2	5 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	68 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	宇都宮医院、すみれクリニック
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの周囲は緑が多く、人や車の通り先少なく静かな環境である。手入れの行き届いた広い庭が印象的で、利用者と一緒に野菜の栽培をしながら四季を感じたり力を発揮できる場としている。戸外へ出て行く機会を多く持っており、利用者も職員も一緒に楽しんで、生き生きとした笑顔の写真が飾られていた。また、個別ケアを重視しており、職員と対1で出かけた中、思いを聞き取り、関係を深めていっており、家族のように暖かい雰囲気を感じられた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連項目 :外部4)
	<p>前回評価の主な改善課題として、運営推進会議の2ヶ月に1回の開催、市町村との連携、関係づくり 権利擁護に関する勉強会の開催、家族への報告、人権教育・啓発活動、職員を育てる取り組み、同業者との交流等々あげられたが、改善できる項目より順次取り組んでいる。ただ、職員全員での検討がなされている訳ではないので、今後、改善計画の作成、改善方法の具体的な検討等職員全員で取り組むことが求められる。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目 :外部4)</p> <p>管理者は職員へ評価の意義を伝え、ミーティングにて職員全員で意見を出し合い自己評価を作成している。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目 :外部4,5,6)</p> <p>会議は2ヶ月毎に開催しており、役場福祉課課長や地区の区長、教育代表、入居者、家族代表、管理者等が参加し、利用者の日々の暮らしについての報告だけでなく、災害対策についての話や地域との関わりをどう深めていくか等を話し合っている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法 運営への反映 (関連項目 :外部8,9)</p> <p>ホーム内外の苦情相談窓口は契約時に文書と口頭で説明し、ホーム玄関に窓口を掲示し意見箱も設置している。家族の面会時には話しやすい雰囲気作りを努めている。意見があった場合は話し合ってから向きに改善に向けて取り組んでいこうと考えている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携 (関連項目 :外部3)</p> <p>日常の挨拶だけでなく、文化祭への出展やどんと焼きなどの町内行事へ参加し、積極的に地域へ出て交流を図っている。ホームでの夏祭りの開催や中学生の体験学習も受け入れ地域の人々がホームを訪れる機会も作っている。地域に貢献できることとして、こども110番の活動や、美化運動などを考えており、地域へ働きかけている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1.理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくっている	前回評価をうけ理念を職員全員で見直し、地域との関係性を踏まえて個人の尊重や思いやり、共に共感しあえる家族のような関係でありのままの姿を受け入れる、というホーム独自の理念を掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各ユニットの玄関に掲示し、申し送りノートの表紙に記載し職員全員の目に入るようにしている。また、毎朝の申し送りで唱和したり、ミーティングで取り組みについて話し合っている。職員全員で作成した理念でもあり、全員が常に理念を念頭におき、日々振り返りながら実践に向けて取り組んでいる。		
2.地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日常の挨拶だけでなく、文化祭への出展やどんど焼きなどの町内行事へ参加し積極的に地域へ出て交流を図っている。夏祭りの開催や中学生の体験学習も受け入れ地域の人々がホームに訪れる機会も作り交流に努めている。地域に貢献できることとしてこども110番の活動や、美化運動などを考えており、地域へ働きかけている。		
2.理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は職員へ評価の意義・目的を伝え、ミーティングにて職員全員で意見を出し合い自己評価を作成している。前回の評価での改善事項については、一部は改善されている。理念に関しては職員全員で取り組んだが、その他の項目に関してはミーティング等はしておらず、具体的な改善への取り組みがなされていない状況であった。		前回評価時の担当者の離職等もあり評価後の取り組みが不十分であった。今回の評価後の職員全員での話し合いや改善計画の作成、運営推進会議での発表等、具体的な改善に向けた取り組みが望まれる。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月毎に開催しており、役場福祉課課長や地区の区長、教育代表、入居者、家族代表、管理者等が参加し、利用者の日々の暮らしぶりの報告だけでなく、災害対策についての話や地域との関わりをどう深めていくか等を話し合っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	役場担当者とは電話や役場へ赴き情報交換や相談し、良好な関係を築くことができている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	昨年一度パンフレットを取り寄せ職員全員に配布されたことはあるが勉強会はなく、管理者も含め職員の理解が浅いため、利用者や家族、地域の方に説明ができる状態ではない。		制度について外部・内部研修にて学習する機会を設け、繰り返し学ぶことでいつでも簡単な説明ができるよう準備しておくことが望ましい。また、パンフレットも家族がいつでも見れるようにホーム玄関等に常備しておくことが望まれる。
4.理念を实践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らし方や健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時や電話で個別に利用者の健康状態や暮らし方を報告している。行事等があったときは「くぬぎ便り」を作成し写真を添えて報告している。金銭に関しては預かり金のある利用者について金銭出納帳を作成しているが家族に見せる等の報告は行われていない。職員の異動の際は面会時に説明するようにしている。		金銭については家族の面会時や入金時に出納帳を確認してもらい、サインを貰うなどして報告する必要がある。遠方の家族に対しても出納帳のコピーを送付し定期的に報告しておくことが望ましい。
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内外の苦情相談窓口は契約時に文書と口頭で説明し、ホーム玄関に窓口を掲示し意見箱も設置している。家族の面会時には話しやすい雰囲気作りに努めている。意見があった場合は話し合っって前向きに改善に向けて取り組んでいこうと考えている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人施設間の移動はほとんどない。やむを得ず離職がある場合は利用者一人ひとりに説明し、残った職員同士でフォローし合い、新人職員との引き継ぎ期間をできるだけ長く設けて早く馴染めるようにし、利用者へのダメージを最小限にする努力をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
11	19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の募集・採用にあたり性別や年齢で制限することはない。職員の趣味や特技を活かしてレクレーションに取り入れたい。役割分担を行って能力が発揮できるよう配慮している。</p>		
12	20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>人権についてはミーティングで言葉使いについて管理者が話したり、業務の中で気付いたこと等を話し合っている。職員は日々、理念に基づいて利用者への接し方を振り返り、常に初心に帰って、人権尊重に努めている。外部研修の受講はされていない。</p>		<p>人権についての外部研修を管理者だけでなく職員も受講し、人権に対する意識を強化し、新たな知識も取り入れていくことが望まれる。</p>
13	21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>管理者は職員へ外部研修の案内をし希望や経験に応じて行けるよう配慮している。研修後はミーティングで伝達研修し、知識の共有を図っている。具体的な研修の年間計画は立てられていない。</p>		<p>スタッフの経験・段階に応じて外部・内部研修の年間計画を立て、全ての職員が計画的に質を向上させていけるよう工夫することが望まれる。</p>
14	22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>福智町独自のグループホーム協議会に加入しており月に一回の会議に施設長が参加している。まだ立ち上げられたばかりのため、今後は協議会主催の勉強会などに職員も参加できるようにし、その中で交流を図りネットワーク作りをしていきたいと考えている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>サービス利用前には、まず面談を行い情報収集し、希望に応じて見学しその後に入居という形をとっている。体験入居は行っていない。</p>		
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀れを共にし、本人から学んだり支えあう関係を築いている</p>	<p>ホームでは個別ケアを重視している為、職員と対1で接する機会が多い。その中で一緒に楽しみ、時には怒ったり悩んだりといった感情を共有している。また共に過ごす中で生活の知恵、料理の仕方等を教わりながら、支えあう関係を築けるよう日々関わりを振り返っている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者や家族との何気ない会話の中から思いや意向を聞き取るようにしている。表出が困難な場合は各担当者が中心となって職員全員で話し合い、表情や行動等から検討している。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>日々の関わりの中の利用者の希望や、家族の意見、受診時の医師の意見を取り入れてアセスメントし、介護計画を作成している。全職員で意見を出し合って利用者の状態に合った介護計画の作成に努めている。</p>		
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は3ヶ月ごと、退院後や変化があればその都度モニタリングし見直している。また各担当者は変化があると気付いたときは進んで提案し、現状に即した計画作成に努めている。また見直しの際には利用者、家族、医師の意見を取り入れ検討している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人内のデイサービスが隣接しており、合同での催しを開催したり、空き部屋があるときはショートステイも行っている。また受診時は必ず職員が付き添い入院された場合は病院と連絡を取り合い洗濯物を持ち帰ったり必要物品の準備をする等、状況に応じて臨機応変に対応している。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は内科、歯科、リハビリ等すべて、それぞれの希望に応じた病院を受診している。依頼すれば往診も可能である。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームの方針としては希望があれば終末期の対応も可能としている。契約時に同意書も作成しているが、現在まで看取りの実例はない。職員に准看護師がおり、訪問看護とも連携を取り終末期に向けた環境は整っている。		
1.その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	契約時に個人情報の取り扱い、写真掲載について説明し、同意を得ている。個人記録は鍵のかかる棚に収納し他人に見られることはない。記録には他の利用者の名前を出さない等記入にも配慮している。また理念に基づいて個人の尊重やプライバシー確保には配慮している。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間等大まかな1日の流れは決まっているが、時間を制限せず利用者それぞれのペースに合わせている。希望があれば散歩や買い物に行き、できるだけ実現できるように臨機応変に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	身体状態や好みに応じて利用者も皮むきなどの簡単な調理やトレー拭き等を職員と一緒にしている。また職員も食事介助をしながら一緒に同じ食事をとり、何気ない会話を交わして穏やかな食事の時間を過ごしている。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は男性と女性で曜日が決まっているが、希望に応じて変更も可能である。時間帯も一応午後からとなっているが、希望に応じて臨機応変に対応しており夕食後に入浴する利用者もおられる。また、近所の温泉に職員と一緒にいくなど、入浴を楽しめるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	庭にきゅうりやナス、トマトを植えて園芸が好きな利用者と一緒に育てたり洗濯物が自分で干せるよう裏口の鍵を自分で管理されている利用者もおられる。喫煙所が設けられ煙草も吸えるよう配慮している。利用者の趣味や力の発揮ができるよう希望を聞きだし応えられるよう配慮している。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者のその日の希望や体調、気候など考慮しながら、買い物や散歩などを日常的に行っている。また、季節の行事として桜や梅、藤、菖蒲などの見学に出かける他、水族館やドライブなど積極的に戸外へ出かけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの玄関は日中は鍵をかけていない。玄関付近にセンサーをつけているが、その音だけに頼らず利用者の様子を見守り安全確保に努めている。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は定期的には実施しているが、夜間想定では話だけで実際に訓練はしていない。職員全員が初期消火の訓練をしておし緊急時の連絡等のマニュアルも把握している。緊急時は隣接施設の宿直や警備会社からの応援もある。		夜間想定での訓練を早急に行い、職員全員が一度は実施ができるように計画を立てていくことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の献立は利用者の希望を取り入れながら職員が考え、隣接施設の栄養士の助言も得ている。水分は毎食時や10時、おやつ時、就寝前など小まめに摂取を促している。摂取量も毎日記録して栄養摂取や水分確保に努めている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は清潔感があり家庭的な家具で落ち着いた雰囲気である。庭が広く、天気の良い日は庭で過ごせるようテーブルやベンチが置かれ、廊下にも家族とくつろげるようソファを置いたりして、居心地良く過ごせるよう工夫している。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れた家具を持ち込み、状態や希望にあわせ配置も工夫して、居心地良く安心して過ごせるよう配慮している。		